

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名 県立沼津東高等学校

※は行事実施後のアンケート、生徒・保護者のアンケート等による。

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	達成状況	自己評価	成果(○)と課題(●)
ア	○自治会活動、部活動の充実 ○挨拶の励行、欠席・遅刻指導 ○PTAとの協働による交通指導 ○生徒指導への組織的対応	・自治会活動の満足度/90%以上※ ・ルールを守っている/90%以上※ ・部活動の満足度/90%以上※ ・交通事故件数/前年比減 ・欠席遅刻者数/1日3人以内 ・いじめ防止等への組織的対応	・自治会活動の満足度 94.6% ・ルールを守っている 98.2% ・部活動の満足度 92.5% ・交通事故件数 R3 24件(12月末現在) R2 27件 ・いじめ防止対策会議の対象件数 0	A	○自治会活動、部活動は満足度が高く、生徒にとって充実した活動となっている。 ○ルールを守っている意識は高いが、自治会が積極的に関わることで挨拶の励行や交通指導をより実のあるものとする。 ○PTAと協働し、校地内への送迎車乗り入れ時の登校の安全を確保した。また、登校時PTAとの合同交通街頭指導も4回実施し、安全に通学するよう指導した。 ○交通指導員による登校時の正門前、下校時の学校敷地わきの交差点での指導により、生徒の交通安全への意識が高まった。 ●校歌指導における過度の威圧的な指導の改善など社会で通用する自治会活動としていく。 ●現状に応じた部活動の統廃合を円滑に進める体制づくりを進める。 ●昨年度に比べ減少したが、学習や集団への適応に不安を持つ不登校事例などが見られた。
	○保育・介護体験実習での学び ○奉仕活動の実践	・活動の満足度/95%以上※ ・1部活1ボランティアの実践	・保育実習、介護実習を各4施設の協力で実施した。 ・部活動単位で、ボランティア活動を推進することはできなかった。 ・1学期3年、2学期2年、3学期1年が奉仕作業として校内・校外（近隣）の清掃活動を行った。	A	○実習により保育、介護の必要性の認識が深まった。 ●介護施設2施設は、訪問することができず、施設職員が来校しての講演・実習となった。 ●コロナ禍ではあったが、部活動顧問会や部長会を定期に開催し、ボランティアを推進していく必要がある。 ○クラスごと協力して校内外の奉仕作業を行い、クラスの団結力を高めるとともに、奉仕の精神を養うことができた。
	○自治会・香陵祭実行委員会を中心とした香陵祭の企画・運営	・達成感・満足度/100%※ ・自治会活動の満足度/90%以上※	・自治会活動への満足度 94.6%	A	○コロナ禍で一般公開はできなかったが、対策をとり、香陵祭を実施することができた。 ○実行委員会を中心として、生徒主体で模擬店でのコロナ対策やコロナ禍でも実施できる体育祭の新たな種目を考え、実行した。 ●コロナ禍での開催を経て、企画内容を見直すことが必要である。 ●より多くの学年や部活動を巻き込み、協働で作上げていく必要がある。
	○高原教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故/0件 ・参加者満足度/100%※	コロナ禍で9月は実施できず、2月にスキー実習で計画したが、再びコロナ禍で中止となった。代替行事を検討することになった。	B	○●9月も、延期した2月も、下見を含め、準備は怠ることなく進めたが中止が繰り返され、教職員も生徒もやるせなさが残る。
	○海浜教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・質の高い泳力向上指導 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故/0件 ・安全に留意して行動/100%※ ・積極的に「集い」を企画・運営・協力した生徒/100%※	・コロナ禍で海へ行っての実施は断念、学校のプールでの水泳訓練、体育館での「集い」の実施となった。可能な範囲内で、実りのある活動ができた。 ・積極的に「集い」に参加できた生徒 58.8%	B	○「若人の集い」については花火やフォークダンスができず、当初の計画通りには行かなかったが、香陵祭等の今後の活動へのステップとしての経験を積むことができた。 (来年度以降、『スタディツアー』に形を変えて実施の方向。)
イ	○探究的な学びを深める指導の研究 ○進路実現に対応する行事の実施（職業を知るセミナー、大学出張講義、医学科講演会、大学見学、研究機関訪問研修、放課後講習、土曜講習、各種模試・大学別校外模試、進路講演会、大学説明会等） ○「学びの基礎診断」測定ツールとしての校内実力テストの実施 ○進路資料室・自習室の環境整備、進路資料の充実	・授業への満足度/85%以上※ ・各種行事の満足度/95%以上※ ・5教科6・7科目型共通テスト受験者/90%以上 ・国公立大学現役合格者/180人以上 ・難関大・医学科合格者/50人以上 ・「学校は学力向上に成果を上げている」と答える保護者/85%以上	・授業への満足度は87.1% ・2年次部の総合的な学習は学部学科研究や大学出張講義、そして模擬国連と、それぞれの時期に集中して取り組むことができた。高原教室の中止・延期の影響で、当初の予定の変更があったが、うまく対応できた。 ・自治会主催の行事への満足度は94.6% ・5教科6・7科目型共通テスト受験者91.3% ・医学科講演会は緊急事態宣言が直前に出てしまい、講師の都合がつかず中止となった。 ・放課後講習、土曜講座の参加率は非常に高かった。 ・浜松医科大に訪問できた（浜松医科大学は本年度初めての高校生を受け入れてくれた）。 ・学力向上への成果についての保護者アンケート回答は3.24/4点で昨年を0.05ポイント上回った。	A	○来年度の行事検討とともに、探究的学びを深めるスタディツアーや1～2年次に渡る沼津東ゼミを計画中である。 ○行事毎の特別時間割で、自習授業を極力削減したり、コロナ関連で出席できない生徒に対して、Zoomによるリモート授業を10クラス以上で実施し、授業、学びの保障に努めた。 ●総合的探究の時間については学年部の一部の教員の負担が大きい。継続的なプロジェクトチームの存在が必要である。 ○進路実現に係る各種行事は効果的に実施され、生徒の満足度も高い。オンリーワン・ハイスクール事業は医療人材育成とともに、予備校講師による特別授業など全体の学力の底上げにも資した。 ○「高校生のための学びの基礎診断」測定ツールとしての校内実力テストは進路検討会の資料等で有効利用できた。
ウ	○生徒の自己肯定感の高揚、希望ある未来像形成への支援	○悩みを抱えた生徒の早期発見 ○生徒理解のための情報共有推進	・心身に問題を抱える生徒の増加に対して、家庭へのサポートを含めて対応した。月2回の定例ミーティング、スクールカウンセラーとの情報交換会、月1回の職員会議において、生徒情報の共有と対策の検討に努めた。	A	○教育相談室と学年部、教務課、生徒課などの分掌と連携し、生徒対応にあたることができた。 ○定例ミーティングや職員会議において、情報の共有と対応策の検討ができた。 ●生徒の自己肯定感や有用感を高めるとともに、生徒個々の問題の早期発見に更に努め適切に対応する。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	自己評価	成果(○)と課題(●)
エ	◎信頼される学校づくりの推進、学校情報の効果的発信	○学校HP等による情報発信 ○PTA等との緊密な連携 ○創立120周年に向けた準備 ○保護者アンケートの実施	・「学校は進路に関する情報提供を行っている」と答える保護者/85%以上 ・PTA総会の参加率/70%以上 ・地区会の参加率/80%以上 ・120周年記念式典の準備と実施 ・保護者アンケート結果/4段階評価の全体平均3.50以上	・PTA総会は、823世帯中、出席431、委任状提出371 出席数/世帯数は52.3% コロナ対策のため、オープンスクールの同日開催は中止したため出席数はほぼ半数になったと思われる。総会後の進路説明会からの出席者は二桁人数いた。 ・地区会はコロナ禍のため開催中止となったが、生徒課長や進路課長講話などをYouTubeで配信した。 ・保護者アンケートについては、各地区で実施、未実施地区は2地区あったが、323の回答数(回答率約40%)。今年度は例年通り2・3年の保護者を対象とした。4段階評価では2学年で3.26、2年3.29、3年3.23(昨年度1年3.29、2年3.28、3年3.18)。2学年平均で3.50以上を達成した項目は3項目(最高は項目④3.54(生徒の自主性、リーダーシップの育成))。最低は昨年同様項目③2.98(生徒の悩みに対応し、実態を把握し生徒理解に努力している)であった。 ・「学校は進路に関する情報提供を行っている」と答えた保護者(アンケート3点・4点)は83.18%。 ・120周年記念式典に向けての準備に取り組み、無事実施できた。	B	○コロナ対策をしつつ、120周年記念式典を無事実施することができた。 ○学校HPの全面的な改善、YouTube等のSNSやクラウドサービスを活用した情報発信は前進している。 ○出欠席の連絡や学校からの情報発信ができる新たなソフトを令和4年度から導入することを予定している。 ●PTA関連の行事は中止としたものもあり、PTAの活動、学校との関わり方など、これまでのやり方を見直し、改善しつつ継承を図る。例：地区会開催の在り方。アンケートの実施方法など。 ●PTA役員・理事の人数・規模・構成を再検討し、適正化を図る。
オ	◎図書館広報活動、朝読書、読書会の充実	○学年・教科等と連携した選書の質の向上、活用内容の高度化 ○朝読書、読書会の活性化	・図書館通信の発行 ・年間貸出し数/生徒2700冊以上 ・県読書感想文コンクール上位入選	・図書館通信を毎月発行した。各号で生徒の読書への興味がわくような記事を載せた。 ・年間貸出冊数：1月末時点で2420冊昨年同時期より増。 ・県読書感想文コンクール県図書館研究会長賞(優良作品)入賞	A	○図書館通信において新着本やシリーズ本・雑誌等の紹介を行い、生徒の興味・関心を高めた。 ●貸出冊数の増加に向けて、教科・学年と連携し、探究活動や授業の中で積極的な活用を試みる。 ○朝読書や読書会を活発に行うことができた。 ○県読書感想文コンクール1名入賞
カ	◎英語コミュニケーション能力と国際感覚を備えた生徒の育成	○1年次生対象のワークショップ及びケンブリッジ英検の実施 ○BB研修(上記の優秀者が参加するグローバルリーダー研修)実施 ○短期・長期留学の紹介	・1年次生希望者数/40人 ・ワークショップ回数/15回 ・グローバルリーダー研修報告書発行 ・国、県、民間のプログラム参加 ・生徒の英語運用能力(CEFRレベルA2以上)/80%以上(卒業時)	・ワークショップは、7月のALT離任後にコロナで新規の着任が見送られたが、独自に開拓した講師の熱心な指導のおかげで8割以上の高い出席率を維持した。ケンブリッジ英検は31名が受験予定。 ・夏季エンパワーメントプログラムは、20名の定員を超える応募があり、研修後の感想も高評価であった。 ・生徒の英語運用能力(CEFRレベルA2以上)は卒業生の95%の生徒が達成することができた。	A	○新型コロナの影響で海外研修が実施できず、国内(広島)での代替研修を3月末に計画している。ワークショップ講師と現地留学生のサポートを得て、テーマ研究に臨む。 ●コロナの収束が見込めない中で、今後の海外研修の在り方を検討する必要がある。 ●共通テストで高得点を取るためのリスニング力を強化する必要がある。
キ	◎探究学習の充実と最先端の科学研究に学ぶ機会の確保	○効果的な探究活動プログラムの研究 ○設備・機材の計画的整備 ○電子顕微鏡実習、放射線実習、科学講演会の計画的実施	・課題研究達成度/5段階で4以上 ・研修満足度/5段階で4以上 ・実習満足度/5段階で4以上 ・科学講演会満足度/5段階で4以上	・研修・実習等の満足度は、電子顕微鏡実習4.95、放射線実習4.90、科学講演会3.62だった。 ・外部の企画に積極的に取り組んだ。具体的には科学の甲子園県大会最終予選に出場し第4位、日本生物学オリンピック2021(銅賞)。13名の生徒がAOI-PARC訪問に参加し研修を受けた。 ・静大、遺伝研、AOI-PARC他と連携し探究活動を実施した。	B	○課題研究では、遺伝研・静大等と連携することにより主体的・自主的に探究活動を行うことができた。 ○課題研究の発表会はコロナ禍で生徒のみの開催となったが、保護者へのZoomによるライブ配信等を実施した。 ○電子顕微鏡実習や放射線実習、校内での特別実習などが予定通り実施され、理数科の生徒にとっては有意義なものとなった。 ●サイエンススクールの予算が大きく減額され、探究活動に必要な物品購入などの活動費が厳しい状況となっている。
ク	◎生徒の学びを深める教職員研修の充実	○学習評価の研究 ○ICTを活用した学習方法の研究 ○教育情勢や進路に関する情報の提供 ○大学入試改革への対応	・学習評価の実践事例の共有 ・全教員による授業公開 ・学習履歴DBの充実 ・研修報告や進路情報資料の配布/常時 ・大学個別のアドミッションポリシー情報の適切かつ効果的な活用	・6月、12月、2月の3回の評価研究で、課題とともに他教科の視点の共有ができた。 ・試行ながら実際に観点別の評価を出し、それをもとに次年度に向けた評価のまとめ方を検討した。 ・定期訪問で全クラスの公開授業を行った。 ・GoogleClassroomやロイノート等を活用した授業実践・公開する教員が増えた。 ・教職員の予備校等による研修に多くの教員が参加してくれた。 ・進路関係の説明会がオンラインでの開催となり、多くの教員が参加した。また、進路情報も例年より多く発信され、先生方に配布した。	A	○ICTを活用した授業が浸透しつつある。 ○授業内外でアンケートやポートフォリオにGoogleFormを活用し、集計が容易になった。 ○自動採点システムの試行を検討している。 ○職員研修を通じて全員の教員が観点別評価を試行した。 ●観点別評価への取り組みは、試行を通して教員の負担増につながる事が予想される。 ●教員間のデジタルデバインドを埋めていく必要がある。
ケ	◎教職員の倫理観と危機管理意識の維持・向上 ◎健康・安全で働き方を意識した職場環境づくり	○コンプライアンス研修の実施 ○危機管理に関する訓練の実施 ○「勤務時間の上限時間」の運用 ○定期的な健康診断の実施 ○施設設備の維持管理	・教職員の不祥事根絶 ・救急講習等の実施 ・校内訓練の効果的実施 ・校外防災訓練参加率の向上 ・時間外勤務の減少 ・職員健康診断受診率/100%	・職員健康診断受診率100% ・外部講師の招聘はできなかったが、職員救命講習会を実施した。 ・校外防災訓練生徒参加率18.7%(昨年度15.3%)、教職員23.5%(昨年度4.4%)感染症対策を実施しながら、夏・冬2回の地域防災訓練への参加を促したが、未実施の自治体が多く、参加率は低かった。	B	●勤務時間管理システムを適切に運用したが、依然として超過勤務の教員があり、時間外勤務の十分な削減には至らなかった。 ○職員の定期的なコンプライアンス研修は機能し、不祥事はなかった。 ○昨年度に引き続き、マスク着用、手洗い・うがい・換気の励行、消毒液の設置、黙食励行、壁掛け扇風機の設置等を行い、感染防止における注意喚起を行い、コロナ禍の危機管理に留意した。 ○職員救命講習会を実施し、外部講師からの指導は受けることができなかったが、校内研修として、職員全員で救命法を実習し、危機管理対応を共有することができた。 ●校内防災訓練は1回のみ開催であり、さらには地域防災訓練が未実施の自治体が多く、生徒教職員とも危機管理の意識高揚には課題を残した。